

第25期 滋賀県産業教育審議会 産業教育施設・設備 学校見学会 結果概要

日時	令和2年11月27日(金) 9時45分～14時15分
行程	9:45～10:40 滋賀県立彦根工業高等学校 見学 11:20～12:25 滋賀県立長浜北星高等学校 見学 13:10～14:15 滋賀県立長浜農業高等学校 見学
出席委員	蔡会長、山根委員、中平委員、山崎委員、秋山委員、中村(俊)委員 以上6名出席(敬称略)
県出席者	横井参事、伊吹参事、金田主査、他関係職員

1. 産業教育施設設備・学校見学会の概要

(1) 滋賀県立彦根工業高等学校

- 電気科 … 電気工事実習室を見学
- 機械科 … 機械実習の授業風景(旋盤実習・溶接実習)および機械加工実習室、FA実習室等の施設や設備を見学
- 建設科 … 製図実習の授業風景を見学
- その他 … 生徒が制作した多くの作品を見学

(2) 滋賀県立長浜北星高等学校

- 福祉系列 … 生活支援技術の授業風景(排泄介助の演習)および介助用トイレや浴室の福祉総合実習室の設備、痰の吸引などの機器を見学
- メカトロニクス系列 … 実習室(旋盤や自動車分解整備設備)、CAD室などを見学
- 情報電子テクノロジー系列 … 高圧電力演習設備や電子計算機室を見学

(3) 滋賀県立長浜農業高等学校

- 農場施設 … 草花温室ハウス、草花園を見学
- 農業技術センター … 食品加工実習等が行われている農産加工室、畜産加工等を見学
- 各畜舎 … 飼育されている馬や牛などの動物を見学
- その他 … 全ての農業機械(トラクターやコンバイン、ホイールローダーなど)の定期点検が職員の手で行われており、その様子を見学

2. 参加委員からのコメント

- ①各科の実習内容や第6次産業化を見据えた教育、農業高校に特化した課外活動など充実しているように感じた一方で、現行の機器、施設、設備の陳腐化、老朽化がかなり進んでおり、スマート農業などの最先端技術に対応した学習が行えているのか疑問に感じた。
- ②学校現場では、最先端の設備は必要ないと思うが、生徒が安全に正しく基礎的基本的な専門知識・技術を身に付けることができる教育環境の整備は必要である。
- ③各高等学校で掲げている教育到達目標を実現するためには、今ある現状の備品、機器、設備では不十分なこと、老朽化が目立ち危険もあることに驚いた。
- ④今回の視察した3校は、卒業後の進学比率が比較的高いことや、この比率がどんどん上がってきているということを聞き、県内の産業教育の現状を知る上では非常に有効であった。一方、専門高校への進学者が年々少なくなっている原因については、資格がとれるという強みが、専門学校と比較したとき、その優位性が失われつつある。

- ⑤それぞれ専門分野の大学への進学を目指す進学コースの設置や、新時代の技術に対応可能な新たな分野の新規創設、産業分野を担う教員の養成に特化したコースの創設なども検討する必要があるのではないか。
- ⑥実習設備・機械の老朽化について、大企業の機械の買い替えや遊休設備を効率的に融通してもらえるような県と企業の連携もしくは提携の仕組みを作ることはできないか。
- ⑦中学校への専門高校の情報発信について、大人が知らない情報を家庭で子どもに伝えるのは大変難しいのが現状であり、情報発信不足を感じる。チラシや資料を作っても子どもたちに魅力は伝わらず、専門高校の魅力をしっかり伝えるためには、子どもたちが興味を持つような動画をつくり、県内の中学校教育の現場で進路のイメージに使ってもらえるような素材を作りこむことが必要である。そのための予算を組み、プロの視点で専門高校の良さを編集してもらう必要性を感じる。
- ⑧実習室の空気感や生徒たちの姿から手に職をつけることのできている自身への自信と誇りが感じられ、しっかりと未来に向かう表情から3年間に得ているものの大きさを感じとれた。これから進路を選択する中学生たちには成長した高校生たちの姿に出会ってもらうことが専門高校の魅力伝えることになるのではないか。
- ⑨実習設備は旧式のものが多いかもしれないが、そのシステムや構造などの基礎を知ることが大切なことであり、それが将来の現場で応用する力になっているのではないかと感じた。
- ⑩それぞれの学科・科でどんな力を生徒に身に付けさせることが、その生徒の将来につながるのか、また、学校に求められる使命が、どこでも通用するような、どこからか借りてきたような言葉ではなく、県の特徴をとらえた真摯に学ぶ生徒の姿を思わせる表現で、機器類・施設の更新理由を述べる必要があるのではないか。
- ⑪その際に必要なことは、本県のもつ特徴的な産業や経済状況を分析し、将来を展望（学んだ生徒たちの進学や就労につながる）することではないか。
- ⑫産業構造が変化するなかで、どのような産業が中学生が社会に出る頃を中心にしているかを見通しにくくなっている。また、保護者の意識は保護者自身が高校や大学を選んだときの感覚のままになっていることが多いのが現状であり、どのようにして、専門高校の特徴やよさを伝え理解してもらえるかを検討する必要がある。